

大阪市立大学の研究者の世界

第3回

ACADEMIC CAFE

2020 7.9 Thu
13:10~15:10

Zoom開催
学内限定

参加方法: Zoomウェビナーにて開催(URLより参加)
※URL・パスワードはポータルサイトに掲載します。

テーマ: 動物にこころはあるか?

Episode1. 魚にもこころはあるか?



幸田 正典
理学研究科 教授

昨年、我々の研究室は、魚が鏡に映る姿を自分だと認識することを世界ではじめて発見した。その後、魚もヒトと同様に相手の顔で他個体を区別し(「他者認識」、鏡に映る自分の顔で鏡像を自分だと認識(「自己認識」)することを、動物ではじめて明らかにした。魚が他個体と鏡の自分を認識する過程は、ヒトの場合とよく似ている。鏡がわかる魚は自分の顔が分かっており、さらに自分が存在していることもわかっている可能性すらある。この自己意識の存在は、魚にもヒトのような高次の「こころ」があることを示唆している。

Episode2. ハトは他者に協力できるのか?



佐伯 大輔
文学研究科 准教授

行動分析学では、条件づけの手法を用いて、ヒトや動物の行動が、経験によってどのように変化するかを研究する。今回、その研究例として、「四人のジレンマゲーム」という、他者との「協力」と「裏切り」の間の選択場面を持ちいて、ハトの協力的行動を調べた研究を紹介する。また、行動分析学は、行動の原因を、心(こころ)ではなく、環境に求めるという立場をとるが、このような立場から、動物の行動がどのように解釈できるかを論じる。

不可識別者同一性原理を持ち出すまでもなく、また、ピュリダンのロバを思い出すまでもなく、あるものを別のものと区別したり、またあるものとあるものとの同一性を確認したりすることには自然種の問題などの困難が伴う。ましてやそれが、「自己」と「他者」の文脈では、自己の同一性の根拠と、他者が「異なるが似ている」ことをもとにした他者行動の推測がどのようにして可能となるのかも問われる。さて、AIは鏡を見るだろうか?



ファシリテーター
橋本 文彦
副学長

※後日動画配信予定

All religions, arts and sciences are branches of the same tree. Albert Einstein

われわれは、すべてのものを包括する統一
的な知識を求めようとする熱望を、先祖代々
受け継いできました。学問の最高の殿堂に
与えられた総合大学(university)の名
は、古代から幾世紀もの時代を通じて、総
合的な姿こそ、十全の信頼を与えられるべき
唯一のものであったことを、われわれの心
に銘記させます。しかし、過ぎる100年余の
間に、学問の多種多様の分枝は、その広さ
においても、またその深さにおいてもま
す拡がり、われわれは奇妙な矛盾に直面す
るに至りました。われわれは、今までに知ら
れてきたことの総和を結び合わせて一つの
全一的なものにするに足る信頼できる素
材が、今ようやく獲得されはじめたばかりで
あることを、はっきりと感じます。ところが一
方では、ただ一人の人間の頭脳が、学問全
体の中の一つの小さな専門領域以上のもの
を十分に支配することは、ほとんど不可能
に近くなってしまったのです。

この矛盾を切り抜けるには(われわれの真
の目的が永久に失われてしまわないように
するためには)、われわれの中の誰かが、
諸々の事実や理論を総合する仕事に思い
きって手を着けるより他には道がないと思
います。

シュレーディンガー：岡小天；鎮目恭夫 訳。
「生命とは何か—物理的にみた生細胞」
まえがきより抜粋

申込
不要

知の
SEEDS
大阪市立大学